

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研 究 テーマ	医療的ケアが必要な未就学の子どもをもつ母親を対象とした オンライン交流会の満足度調査				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	長屋 和美
	研究分担者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	鈴木 和香子
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	福島 恭子
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	長屋 和美

講演題目
医療的ケアが必要な未就学の子どもをもつ母親を対象としたオンライン交流会の満足度調査
研究の目的、成果及び今後の展望
【研究の目的】 医療的ケア児の在宅生活における、母親のメンタルヘルスは課題となっており、改善するための取り組みが必要である。静岡県社会福祉協議会の調査によると、医療的ケア児世帯の62%が孤独感を感じており、医療的ケア児の親支援については、親同士の交流の場を提供することが重要と考えられる。しかし、医療的ケア児の親の交流会を対面で行う場合の問題点として、親が子どもから目を離せないこと、医療機器の運搬や児の移動に関する労力がかかること、医療的ケア児の推定人数の少なさから場所選定の問題が生じること、児の体調の不安定さ等により、参加者数が見込めない可能性がある。そこで本研究では、医療的ケア児の母親にとって負担の少ない交流の場として、オンライン交流会を企画・実施し、参加した母親を対象に満足度調査を行うことを目的とした。 【成果及び今後の展望】 第1回目の参加者は1名、第2回目の参加者は3名であった。2回連続講座に参加できた者は0名であった。第1回目の交流会では、ニックネームで参加することや、この場で話したことは外部では話さないこと等、交流会参加上のルールについて説明し、自己紹介の時間を設けた。参加者が1名であったため、可能な範囲で母親本人や子どもの生活状況について説明していただき、医師から医療的ケアが必要な子どもの成長発達について、事例を交えながら講義していただいた。第2回目の交流会では、新規参加者の集まりとなったため、第1回目と同様に自己紹介の時間を設けた。その後、タッピングタッチインストラクターによるリラクゼーションを目的としたプログラムを行い、感想を交えながら、母親自身や子どもの生活状況、知りたい情報について話していただく形で交流した。オンライン交流会が配慮された安心できる空間であったこと、母親と講師・母親同士が近い距離間でコミュニケーションできたことが好意的に受け止められていた。 今後の展望については、回収したアンケート結果を踏まえて検討したい。現時点においては、参加した母親同士の交流は図れていたが、参加人数が少なかったことが課題である。また、子どもの世話のためオンラインにアクセスする時間が遅れたり、オンラインツールの使用が不慣れな者もいたりしたため、予定していたプログラムを短縮して実施することになった。オンライン交流会にアクセスするためのステーションの設置や母親が参加しやすい日程の選定、柔軟性のあるプログラム内容の検討など、母親のニーズに沿った内容や方法で実践を継続していきたい。